社会参画力を育てるやりくり授業の開発
～根拠を持って提案する活動を通して～

岡真奈美
鳥取大学附属中学校　社会科
E-mail: oka-m@tottori-u.ac.jp

Manami Oka（Tottori University Junior High School）: **Planning of managiment class for Fostering Social Participation ～Through the activity of making proposals with evidence.**

要旨 ― 社会に主体的に関わる力を育てるために，根拠を持って政策を提案する授業の開発を試みた。授業における生徒への支援として，根拠を明確にするための思考ツール（トゥールミン図式）を用いた。さらに、提案を聞く力を育てるために質問する活動を意図的に取り入れた。その結果，自分の意見を述べることに自信がついた生徒や，社会的事象への関心を高めた生徒が増加した。

キーワード ― 社会参画力，やりくり，提案する授業

Abstract ― I attempted to develop a class for students to propose policies with evidence in order to develop their ability to be proactively involved in society. To support students in the class, I used a thinking tool (Toulmin diagram) to clarify the rationale. In addition, questioning activities were intentionally incorporated in order to foster the ability to listen to proposals. As a result, the number of students who became more confident in expressing their opinions and those who increased their interest in social events increased.

Key words ― social participation, management ,proposal lessons

1. はじめに
1.1. 問題の所在

18 歳で選挙の投票が可能になってから数年がたっている。総務省の発表によると，10 代の投票率は平成 29 年 10 月に行われた第 48 回衆議院議員総選挙で，40.49％（全年代を通じた投票率は 53.68％），令和元年 7 月に行われた第 25 回参議院議員通常選挙で，32.28％となっている。（全年代を通じた投票率は 48.80％）

このように，いずれの選挙でも若年層全体の投票率は他の年代と比べて，低い水準にとどまっている。そこで総務省では，特に若年層への選挙啓発や主権者教育に取り組むとともに，関係機関等と緊密な連携を図り，投票率の向上に努めている。

また，2022 年から成人年齢も 18 歳に引き下げられることから，選挙権を持つ主権者としてだけでなく，保護者の承認なく契約できる消費者としての意識づけも必要になってくるといえる。

そのために社会科では，社会に関わろうとする力つまり社会参画力の育成が一層重要になってくるといえる。

社会参画力とは，北（2015）によると「よりよい社会に主体的にかかわる力」であり，「単に社会の活動に参加するとか協力するといったレベルではなく，企画・計画する段階からかかわること」を意味している。

社会参画力を構成する要素としては，様々な考え方があるが星野・鵜沼（2018）は大きく３つの要素から構成されているとしている。すなわち「地域社会への興味･関心（主権者意識）」「課題に関する価値判断・意思決定」「他者との協働・合意形成」である。

この社会参画への意識や参画しようとする意欲を高めることが，主権者として，また消費者としての意識を育てることにつながるのではないかと考えている。

図 1 社会参画力の構成要素
出典 星野・鵜沼（2018）より作成

実際，日本青少年研究所が高校生を対象に行った意識調査からも，日本の高校生は社会参画についての意識が極めて低いことがわかる。例えば，「私の参加により，変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない」の項目では，肯定的回答が 35.4 ポイントにとどまっていた。

同じ質問に対して，中国 79.6 ポイント，アメリカ 70.5 ポイントとなっており，よりよい社会に主体的に関わろうとする意欲の低さは，国際比較においても顕著に現れている。

1.2. 研究方法

図 1 であげた 3 つの力は，互いに連動しており，個人の意思決定をもとに合意形成を行うことで，社会に関心を持つようになると考えられる。その関心が再び，個人の意思決定を促していくのではないだろうかと考え，以下を仮説として設定した。

①社会的事象に対して社会科の見方・考え方を用いて自分なりの提案を行う活動では，提案に根拠を持たせる必要があるため，結果的に知識・技能を活用して思考を深めることができるのではないか。

②他者との協働を通して思考を深めることで，社会参画への意欲を高めることができるのではないか。

この仮説をもとにアンケート調査と授業実践を行い，アンケート結果の変化と生徒の記述から，生徒の意識の変化を分析した。

1.3 生徒の実態

2021 年 4 月に実施したアンケートでは本学年の生徒は，社会的な事象に関心が高く，合意形成の基礎となる話し合い活動を意欲的に行うことができていることがわかる。

表 1 2021 年 4 月のアンケート結果

	とてもそう思う	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない	全く思わない
話し合い活動は好きだ	26.8	37.0	24.4	7.9	3.9	0.0
自分の意見をうまく伝えられる	10.9	37.5	34.4	14.8	1.6	0.8
世界や日本の出来事に興味がある	33.1	34.6	25.2	6.3	0.8	0.0

しかし，自分の意見を伝えることについては肯定的評価が低く，達成感を感じていない傾向があるといえる。**（表1）**

そのため，提案する授業を作るにあたり，生徒の「話すこと」への抵抗感を減らす必要があった。そのため聞き手の育成と，思考ツールを用いた提案方法の支援を行った。具体的には，話し合い活動の際，お互いの提案に対して必ず 1 つは質問をすることを意識づけ能動的に人の意見を聞く取り組みを行った。

2. 授業の実践

2.1. 提案する授業を実践した授業

本年度前期に実践した授業は以下の通り。

①新しいお札の顔を選ぼう。（意見に根拠をもたせる力）

②単元の学習を終えて，疑問に思ったことを調べてみよう。（質問する力）

③女性アスリートの定義を考える。（社会を「公正」の視点でとらえる力）

④新型コロナワクチン接種の優先順位を考えよう。（「効率」と「公正」とを両立させる視点をもつ力）

⑤憲法のイチオシ条文を選ぼう。（合意形成の力）

⑥社会保障費の配分について提案しよう。（発展問題）

2.2. 授業の実際（授業の実践④を例に）

①教材選定の理由

普段，より早く，より正確に答えにたどり着くことを求められている生徒たちにとって，現代の社会問題に自分なりの答えを提案することはとても難しい。なぜなら，普段は意識しない，他者の視点で自分の考えを見つめなければならないからである。

自分の提案した内容は，客観的にみて「効率」的であり，かつ「公正」であるのか，お互いが提案した意見のどれがより社会的合意の得られるものなのかを検討しなければならず，より深い思考と表現が求められる。

②授業の目標

自分の意見について根拠をもって説明することができる。（思考・判断・表現）

合意形成を図ることを通して，社会問題を様々な角度から検討し，自分なりの考えをもつことができる。（主体的に学ぶ態度）

③やりくりのポイント

新聞記事や資料をもとにさまざまな角度から社会問題をとらえ，より最適なルールについて合意形成を図る。

④実践授業の実際

授業は２時間構成で行った。１時間目には，Google classroom に配信した新聞記事を読み，書かれていることの何が問題点なのかを自分なりに整理した。（**図 2**）

授業者の意図としては，解凍後に６時間しか使用できないワクチンを，効率よく公正に使用するためには，どのような人たちにワクチン接種の優先順位をつけるべきかということをとらえさせたかった。しかし，実際には「６時間以内」の制限を考慮しない案が見られたため，この段階でしっかりと問題を把握させるべきであったと感じている。

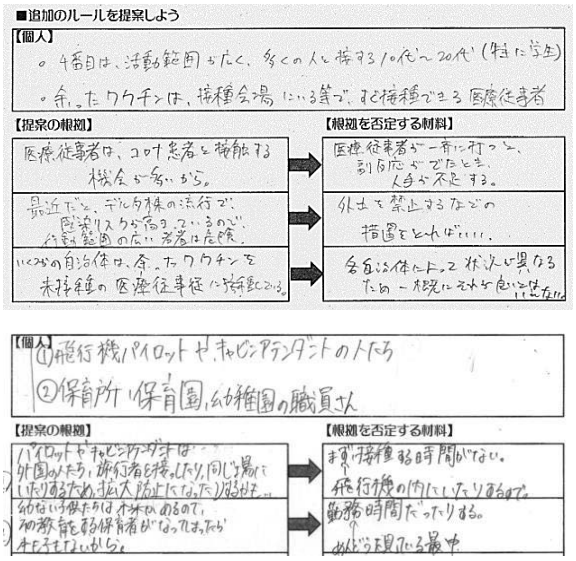

図 3　個人の思考を深めるためのワークシート

図 2　新聞記事を読み課題を把握する

例えば，ワクチン接種のキャンセルをどうしたら防げるかという問題に焦点をあてた生徒もいた。

次に，自分なりの提案とその根拠を整理した。その際に，根拠が否定できる場合の条件についても考えさせることで，自分の提案の限界について客観的にとらえさせようと試みた。（**図 3**）

２時間目には，班の中で自分の案やその根拠を説明した。この時に聞く側は必ず質問をするという条件をつけることで，お互いの思考を深めたり自分とは違う視点に気付けたりできるのではないかと考えた。

実際にはなかなか質問が思いつかずに苦労する生徒が多く，聞く力を育てる必要性を実感した。

班での提案のあと，班で一つの案を採用し，協力して根拠固めを行った。ほかの班に提案する際に，説得力のあるデータや資料を集めていた。

そして，ほかの班へ行って説明し，質問を受けるという活動を班員全員が行った。

全員が提案に携わることで，班の中での情報共有の必要性や必然性を高めることを意図した。（**図 4・図 5・図 6**）

図 4　班の意見を裏付けるデータを探す

図 5 効果的なデータを提示しながら伝える

図 6 提案について質問をする

3. 結果と分析

3.1. 生徒の記述から

個人の思考を高める時間には，ただ根拠を持って提案するだけでなく，自分が根拠として考えているものの限界を考える活動を取り入れた。(**図 3**)

これによって，自分の考えのもとになる材料がどのような状況であれば使えるのかを理解したうえで提案することができるようになっていた。

最初は「根拠を否定する材料」を考えることに苦労していた生徒も多くいたが，「どの立場の人にでもあてはまるのか」と考えたり，「視点を変えても同じ主張ができるのか」と考えたりする生徒がふえてきた。

図7のふりかえりからは，自分が最善だと思った方法が，他の立場に立って考えると全く違う見方になることに気づき，一つの問題でも多くの視点で考えることの必要性に気づく記述がみられた。

また，**図 8** のふりかえりからは，新型コロナワクチンの接種問題にとどまらず，広く社会問題へ関心を広げている様子がみられる。特に提案する活動によって，社会問題をただの情報として「知る」だけでなく，「関心を持つ」「自分事としてとらえる」という意識に変わっている。

図 9 の記述からは，提案した自分たちの案と他の提案とを比較しながら思考していることがわかる。特に，根拠に着目して聞くようになっており，提案を聞く際のポイントを押さえていることがわかる。

誰に接種すれば、効率よく、効果的にワクチンを使えるのかを考えるには、いろいろな視点が必要だと分かりました。誰かにとっての利益が、他の人の不利益になってしまわないように、公平性を配慮するのが難しいなと思いました。班の中では、スムーズに意見をまとめることができ、必要な資料もすぐに集められたので良かったと思います。他の班の意見も聞いて、自分たちと全く違うものも多かったので、視点を変えながら多面的に見て、考えていくようにしたいと思いました。

図 7「視点」を意識したふりかえり

答えのない問いを答えまたは作ってすごく難しいなと思いました。でもいつもニュースでみて聞いて知っているだけのときよりも更にいっそう自分で考えることにより議論に関心をもつことができました。

班によって余ったワクチンをどうするかが違い、おもしろかった。この授業をする前ではあまり余ったワクチンについて考えたことがなかったが、この授業をやってから今の社会の問題について考えることは大切だと思った。

とてもたくさんの意見があっておもしろかったです。これから様々な問題に対して、better な案をしっかり考えてもっと社会に関心をもっていきたいです

図 8 社会的事象に関心を広げたふりかえり

ただ自分の主張を言うだけではなく、根拠や裏付け、条件などをしっかり考えることが、主張を強めることにつながるんだと気付かされました。効率と公正どちらも重視された意見を考えるのはすごく大変でした。でも、どれだけ議論されて、解決が難しい問題について向き合うことはすごく大切なんだなと思いました。これからの未来が明るくなるよう考えることはやめずに、どれが一番ベストなのか考え続ける必要があるなと思います。

班の人や他班の人の意見を聞いてみると、様々な意見があると思った。様々な考えがあって反論があって、疑問があって、すごくおもしろかったし、理解ができた時は納得もできた。私は医療従事者の家族に打つと考えていたけど、リスクが高い面ではいいかもしれないけど、公正ではないなと考えた。でも、1番リスクをともなっている仕事の家族なので、公正ではないかもしれないけど、心要だと、やっぱり思う。偉いなと思ったのは4班の考えだった。1番若者がワクチン接種できていないなと考えると、一番最適だと思った。

班の中や他の班の人の意見をきいて、考えていなかった提案が出てきて「確かに」と思わせられる場面が多かった。また、コロナによる影響がよく分かっていない人々(こんぶなど)をどうするかをとてもなやまされた。もっと広い視野と少数の人々に対する思いやりが必要だと感じた。

図 9 発表・質問を通して思考を深めたふりかえり

3.2. アンケートの結果から

授業実践の後，9 月に行ったアンケートと 4 月のアンケートの結果を比較した。（**表2**）

対応のある t 検定を行ったところ，有意差が見られたのは「社会科の学習は楽しい」「社会科で学習した知識は将来役に立つ」「自分の意見を上手く伝えられる」の 3 項目であった。（$p<.05$）

「社会科の学習は楽しい」では「とてもそう思う」が 22%，「社会科で学習した知識は将来役に立つ」では 29%，「自分の意見を上手く伝えられる」では 23%それぞれ上昇した。（**図 10　11　12**）

今回の取り組みでは，根拠をもって提案すること，聞き手は必ず質問することの 2 点を意識して課題に取り組んでいた。

そのため，課題を自分事としてとらえる生徒が多く，結果として学習意欲につながっていったと考えられる。

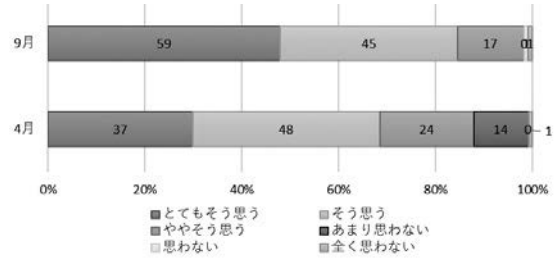

図 10　社会科の学習は楽しい

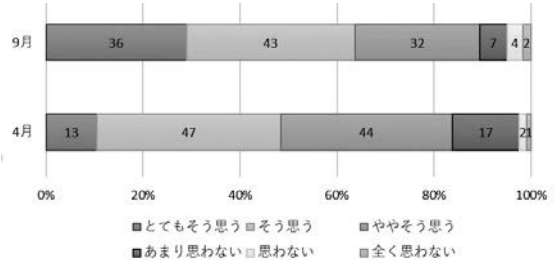

図 11　自分の意見をうまく伝えられる

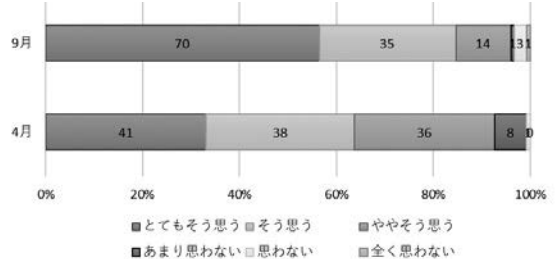

図 12　社会科で学習した知識は将来役に立つ

また，何度か思考ツールを活用して意見交換を行うことで，伝えるための方法が定着し，質問をしようとする聞き手を意識して提案を準備することができる生徒が増えた。その結果，「上手く伝えられた」という実感を持ったのではないかと考えられる。

これらの活動を通して，「ニュースに関心を持つようになったか」という質問に対し，「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的回答が 76%になった。

自分なりの考えや意見を持つことで，「他の人はどう考えているのだろう」という疑問や，「自分の意見の根拠は正しいのだろうか」という疑問を持ち，それが社会的事象への関心へとつながった結果ではないかと考える。

なお，このアンケートは先述の授業を実践した直後の 9 月に実施しており，公民的分野の学習はまだ全く進んでいない時期である。そのため，公民的分野を学習したことによるアンケート結果への影響は極めて低いと言える。

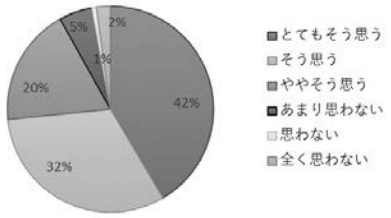

図 13　ニュースに関心を持つようになった

4. 今後の課題

今回，様々な角度から「提案する授業」づくりを行った。授業をはじめた当初は「答えの出ない問題を考える必要があるのか」と質問してくる生徒もおり，活動の意義をあらかじめ理解させることの必要性を感じた。

生徒の思考が深まる過程をどのようにとらえるかも課題として挙げられる。実践後の生徒の記述を読み取ることは可能であるが，変化をとらえることは難しく，今後はその手法も検討の必要がある。

また，今回は課題を授業者が提供する形で授業を行った。しかし，本来，社会参画力とは学習者自らがよりよい社会を作ろうと意欲的に働きかけることで身につく力であるため，学習

者自身が疑問を生み出すことも必要になってくる。そのため，これからは学習内容を通して自ら疑問を設定し追及していける力や他の人の設定した課題に質問することを通して社会に関わる視点を増やせる力を育成していきたい。

引用文献

総務省
https://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/sonota/nendaibetu/
日本青少年研究所
https://www.niye.go.jp/research/summary/r3/syakai.html
北俊夫（2015）「教育の小径」No.83
星野尊乗，鵜沼秀雅（2018）“社会参画力を高める社会科授業に関する研究―「提案型社会参画学習」の構想を通して－”『福島大学総合教育研究センター紀要』第 25 号 p.34

参考文献

遠藤啓太　当事者意識をもって社会問題に向き合う生徒の育成 ：中学校社会公民的分野「地方自治」の単元を通して『中等教育研究紀要／広島大学附属福山中・高等学校』2017-03-31, Vol.57, p.168-173

表 2　4 月・9 月実施アンケートの結果（%）

	4月						9月					
	とてもそう思う	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない	全く思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない	全く思わない
1．社会科の学習は楽しい	37	48	24	14	0	1	59	45	17	0	1	1
2．話し合い活動は好きだ	32	47	30	9	5	0	56	37	16	10	3	2
3．世界や日本の出来事に興味がある	42	41	31	8	1	0	54	40	19	9	1	1
4話し合い活動を通して自分の意見が変化した経験がある	34	50	33	6	0	0	46	50	25	0	2	1
5社会科で学習した知識は将来役に立つ	41	38	36	8	1	0	70	35	14	1	3	1
6自分たちの力で世の中を変えられる	15	30	43	28	6	2	22	41	39	10	9	3
7話し合い活動で自分の意見をうまく伝えられる	13	47	44	17	2	1	36	43	32	7	4	2
8.話し合い活動で相手の話をしっかりと聞いている	40	64	18	1	0	0	61	44	15	1	1	1
9.話し合い活動では自分の意見をしっかりきいてもらえている	29	70	23	1	1	0	57	49	11	4	2	1